

## □ アナリスト週間相場予想

		
江崎		
西		

## Pick up News

### 〔注目スケジュール〕

- 8/ 8 米商品先物取引委員会 (CFTC) 建玉報告
- 12 米貿易収支、財政収支
- 13 米小売売上高、ユーロ圏鉱工業生産指数
- 14 米消費者物価指数、米新規失業保険申請者件数  
ユーロ圏第1Q・GDP速報、消費者物価指数
- 15 米ミシガン大消費者信頼感指数  
米鉱工業生産指数、NY連銀製造業景気指数

## □ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



チャートは東京金日足にボリンジャーバンドを被せたものである。今月に入り下降バンドウォークに突入し、適度に戻りを入れながら着実に下落している。3120円のサポートをブレイクダウンし単純パターン分析上5月下旬の2975円まではっきりしたサポートラインは無い。先週の週報からあまりテクニカル環境に変化はなく引き続き売り方針。尚、ファンダメンタルズ欄に譲るが、為替の動きが今後の展開に大きく関係しそうである。

白金は実に綺麗な日足チャートとなっている。金に先じて7月半ばに下降バンドウォークに突入し、その起点を7/16の6500円所であるとすると下降第1波動は6000円所までの約500円。7月末に4営業日程度6000円を挟んで時間的調整を経たのち今月に入り下降第2波動を示現、第1波動とほぼ同じ500円幅の下げを演じ現在5500円所を競っている。第2波動後の調整日数は本日で3営業日目、第1波動後の調整日数を参考にすれば来週火曜日辺りを起点として下降第3波動開始となる可能性がある。その場合現在の5500円所から第1波動・第2波動と同じ500円幅を下方に当てはめると最終波動示現後は5000円所という計算が成り立つ。これは現在値から見る次のはっきりしたサポートライン1/22安値5048円ともほぼ一致する。現在の5500円所は最後の売り場であるかもしれない。(8/8前引け現在)

## □ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

欧州中央銀行(ECB)は7日の理事会で金利据え置きを決定したが、その後のトリシェ総裁の記者会見の内容が嫌気され、ユーロは対ドルで急落した。欧州の置かれている状況もまた米国に似たようなもので、インフレ警戒が必要でありながら、もう一方では金融不安も解消されていない。金融政策の舵取りは困難を極めており、ノーバイアスとされたのも大方の予想通りであった。しかし、為替市場ではこれがユーロ売りのきっかけとなり、8日には珍しく日本時間にてユーロ相場が急動意を見せる展開へとつながっている。ユーロ/ドルはストップロス巻き込みながら、1.52ドルの抵抗線を割り込み、ドルは他通貨に対しても全面高の様相を見せている。

ドル高はドル建て商品の魅力を削ぎ、NY金にはマイナスに作用する。一方で、ドル/円は110円が目先の上値抵抗として意識されており、対ユーロでのドル上昇ほどには反応しきれない構図である。そのため、海外安を円安でカバー出来ずに、貴金属は失速するというのがメインシナリオとなろう。

ただ、ドル買いの流れは短期的には行き過ぎ感もあり、フレディマック、AIGの決算が信用不安を煽っているのも事実。これまで優位にあった他国の景況感が日本を含めて悪化しているに過ぎず、ドルが積極的に買われているのではないところに注意が必要である。その意味で、今晚のファニーメイの決算は注目に値する。業績悪化は目に見えているが、いよいよ公的資金注入の道が開かれるのか、それが今後の金融市場全般の動きを左右するものと考えられる。貴金属は戻り売りトレンドに変わりはないが、目先はリバウンドが入る余地が生じていると言えよう。